

この本、
いかがですか？

“標準的なフィジカル アセスメントの重要性”

評者

海野信也

北里大学医学部産科学教授

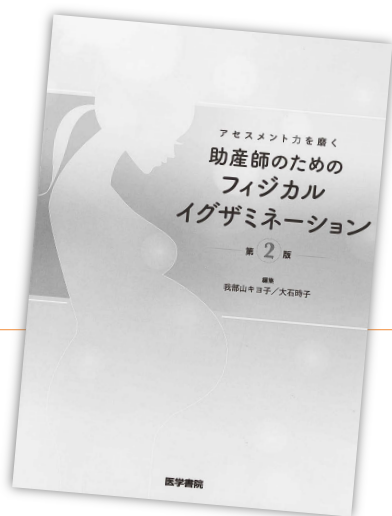
身

体所見を正確に、我流でなく標準的方法で取り、それを記載することは患者の状態評価の基本であり、臨床医学の基盤である。本書は、助産師を対象とし、フィジカルイグザミネーションに特化して、標準的方法を網羅的に記載した成書として希有なものである。編集にあたられた先生方の着眼のすばらしさに敬意を表したい。

現代の医学教育においては、診察法に関する教育がOSCE(客観的臨床能力試験)として系統的に行なわれており、その重要性は十分認識されていることになっている。しかし実際の診療分野の現場では、ともすると身体診察よりも結果を評価しやすい臨床検査が重視される傾向があることは否定できない事実である。

しかし、産科の領域は状況が大きく異なっている。妊娠・分娩の経過中、母体はダイナミックに変化する。正常経過であっても、当初は月単位、週単位で、妊娠末期には日単位と次第に加速し、分娩開始後は時間・分・秒単位と急激に加速した結果、児の娩出に至る。このような経過を適時、適切に把握し対応するためには、ある時間の断面を切り取るだけの臨床検査では不十分であり、われわれの技術では、即時に、そしてくり返して評価することのできる内診所見と胎児心拍数モニタリング所見が、妊娠の進行と児の状態評価のための標準的検査にならざるを得ないのである。

産科における内診は、この領域で必要とされ



アセスメント力を磨く 助産師のための フィジカルイグザミネーション 第2版

我部山キヨ子／大石時子 編集

本体 3600 円＋税

医学書院／2018 年

るフィジカルイグザミネーションの中でもっとも重要と考えられ、事実上産婦人科医と助産師のみが実施する診察法である。この領域の専門職としての両者が共通の言語・用語を用いて、評価し記載することによって、はじめて専門家の知識と経験を最大限に生かした、個々の産婦にとっての最善のケアが可能になると考えられる。

しかし、実際にはこれまでこの課題について職種を超えた検討が十分なされてきたとは言えない。本書はこの領域の初学者にとって系統的な知識を提供するだけでなく、経験ある助産師および産婦人科医にとって、自身の専門職としての知識、考え方を再確認する機会となることが期待できる。ぜひご一読をおすすめしたい。